

事務事業評価表 平成22年度

政策 豊かさ創造性を育む生涯学習環境の充実
 施策 子どもの可能性を伸ばす教育の充実
 基本事業 教育環境の充実

事業名 **スクールバス運行委託等経費**

[0407]

部名	教育部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	総務課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	(誰、何に対して事業を行うのか) 遠距離通学が必要な児童生徒
意図	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 学校から遠隔地に居住する児童、生徒を安全に通学させる。
手段	(事務事業の内容、やり方、手段) 登下校の予定時間に合わせ、委託先のバス会社がスクールバスを運行し、児童生徒を送迎する。

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	遠距離通学が必要な児童生徒数	人	223	227	189	193
対象指標2						
活動指標1	延べ運行時間数	時間	6,060	5,802	5,256	6,000
活動指標2	利用児童生徒数	人	223	203	189	193
成果指標1	事故等により、スクールバスを運行できなかった便数	便	0	0	0	0
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	23,228	23,519	23,501	23,996
正職員人件費 (B)		千円	1,256	1,254	1,245	1,249
総事業費 (A) + (B)		千円	24,484	24,773	24,746	25,245

費用内訳	
21年度	委託料 23,501千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	平成12年度から豊幌地区はJR定期補助から変更している。費用的にも、子どもたちの通学環境からも大きなメリットがあったと思われる。
--------	--	-------------	--

21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
 妥当である
 妥当性が低い

理由・
 根拠は？

義務教育における長距離通学の児童生徒のための安全な通学を支援することは市の役割として妥当。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
 貢献度ふつう
 貢献度小さい
 基礎的事務事業

理由・
 根拠は？

通学上の事故がほぼ防げることから、一定の上位貢献はある。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている
 どちらかといえばあがっている
 あがらない

理由・
 根拠は？

通学に際し、事故は発生していない。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
 成果向上余地 中
 成果向上余地 小・なし

理由・
 根拠は？

必要最小限の範囲を対象にしているほか、平成17年度には入札を実施し、費用削減を図った。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある
 ない

理由・
 根拠は？

必要最小限の範囲を対象にしている。利用者数は若干減っているが路線を減らすことはできない。